

カリフォルニアの風

第6号 令和8年9月18日発行
サンフランシスコ日本語補習校
校長 相澤 順

小さな成長を力に、後期へ

明日19日と26日の授業をもって前期が終了します。4月の新年度から半年近くが過ぎ、子どもたちはそれぞれの学年・学級で授業や行事、友達との関わりなどを通して、多くの経験を積んできました。

サンフランシスコ・サンノゼの二つの地域、それぞれの幼小部・中高部で学ぶ子どもたちにとって、毎週土曜日に補習校へ通う生活は、決して当たり前のことではありません。現地校での一週間を終えた後、週末に日本語で学ぶ時間を大切にしていることそのものに、まず大きな価値があると感じています。

各学級では、26日までの授業の中で、短い時間ではありますが、担任が児童生徒と個別に面談を行います。前期の生活や学習を振り返り「できるようになったこと」「頑張ったこと」「これから挑戦したいこと」などを一緒に考え、後期への励みとする時間です。

子どもたちの成長を振り返るとき、大人はつい「まだできていないこと」に目を向けがちです。しかし、子どもの成長は、必ずしもテストの点数や目に見える成果だけに表れるものではありません。「以前より授業に集中できるようになった」、「友達に自分から声をかけられるようになった」、「難しい漢字を覚えた」、「係の仕事を最後まで責任をもってできた」、このような小さな変化の積み重ねも、大切な成長です。

ご家庭でも、ぜひこの機会に「前よりできるようになったこと」をお子様と一緒に探してみただいただければと思います。

また、10月に入ると、保護者の皆様との個別面談を実施します。補習校でのお子様の生活や学習について、担任からよいところや頑張ってほしいところをお伝えするとともに、ご家庭での様子や、必要に応じて現地校での学習・生活についてもお聞かせいただければと思います。

補習校では、週一回という限られた時間の中で、日本語を使って教科学習を進め、友達と関わり、学校行事等にも取り組んでいます。そのため、学校だけで子どもの成長を支えることはできません。学校で見えている姿と、ご家庭や現地校での姿を互いに伝え合うことが、子どもをより深く理解することにつながります。個別面談は、そのための大切な機会でもあります。

面談では、課題や心配なことについて話し合うこともあると思います。その際にも「もっと頑張らなければ」と伝えるだけではなく、「ここまで頑張ってきたね」「こんなことができるようになったね」と、まず成長を認めた上で、次の目標を一緒に考えていただければと思います。子どもにとって、自分の努力を身近な大人に認めてもらえることは、次に挑戦する大きな力になります。

子どもたちの学校生活も後半に入ります。前期の歩みを学校と家庭で確かめ合い、一人ひとりの成長を認めながら、後期をさらに充実したものにしていきたいと思っています。限られた時間ではありますが、個別面談が、学校と家庭がお子様の成長をともに支えるための有意義な時間になることを願っています。保護者の皆様のご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。

創意工夫で「あいさつ運動」、児童会の取組 幼小部SF校

「おはようございます！」こんな風に元気よく挨拶されると、朝から気持ちがぱっと明るくなりますね。補習校の一日を気持ちよくスタートさせるために、児童会の子どもたちが楽しそうな企画を考えてくれました。

児童会メンバーからこっそりスタンプをもらった8人の先生（ミステリースタンパー）が、自分から元気に挨拶できた子の手にスタンプを押してくれる、という仕掛けです。「どの先生が持っているかわからないから、誰にでも元気に挨拶しようね！」と、楽しそうにスタートしました。

ところが！翌週の全校朝会で、児童会長からこんな言葉がありました。「みなさん、おはようございます。先週始まった『あいさつ運動』についてお話します。初日はみんな元気に挨拶をして、手にたくさんのスタンプを集めていましたね。とても素晴らしいスタートでした。ですが、スタンプを持っていなさそうな先生には挨拶をしなかったり、持っている人にだけ挨拶をしたりする姿も少し見られました。この運動の目的は、児童会の目標でもある『元気よく自分からあいさつ』をできるようになることです。スタンプの有無にかかわらず、自分から気持ちよく挨拶できるようになりましょう」続けて、「学校のために働いてくださっている保護者の皆さんやボランティアの方々にも、感謝を込めて挨拶をしましょう」と呼びかけていました。



【朝会での児童会長からのお話】

さて、その日の子どもたちの様子はどうだったでしょうか。休み時間の廊下や校庭では、あちこちで元気な挨拶が飛び交っていました。スタンプのためではなく、相手も自分も気持ちよくなるために自然と声が出る…そんな素敵な光景であふれていました。もうミステリースタンパーは要らないかもしれませんね。

お兄さん、お姉さんとの楽しいひととき、「異学年交流」 幼小部SJ校

9月から、高学年の児童による「お世話係」の活動が再開しました。5年生はお昼休みに幼稚部へ、6年生は1校時後の10分休みに1年生のもとを訪れ、それぞれ一緒に交流する活動です。

5年生は、事前に幼稚部の先生方の要望を伺い、グループに分かれて「積極的に小さい子に声をかけよう」と意識して向かいました。当日を楽しみにしていた子どもたちは、自ら進んで話しかけるなど、「お兄さん、お姉さん」として優しく接する姿が見られます。活動終了後は「お世話係ノート」に記録を残し、次回の活動に向けた振り返りも、しっかりと行っていました。

6年生は、2週間前からクラス全体で「1年生とどのように過ごすか」を主体的に話し合ってきました。それぞれ役割を決めて練習を重ねた成果もあり、本番では状況に合わせて臨機応変な行動も見られました。この日も予定していた「鬼ごっこ」への参加者が少なかったため、急きょ「だるまさんが転んだ」の応援に回るなど、自分たちの判断で活動をよりよいものに工夫していく、頼もしい姿が見られました。



【幼児と5年生で仲良くかるた遊び】